

例 言

1. 本書は、埼玉県入間郡大井町内に所在する遺跡群の1998年度の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査および整理作業は、国庫（3,650,000円）、県費（1,825,000円）の補助金の交付を受け、平成10年4月3日から平成11年3月31日まで実施した。
3. 調査組織

調 査 主 体 者 大井町教育委員会	文化財保護係長	坪田幹男
担 当 課 生涯学習課文化財保護係	文化財保護係・庶務	高橋偕子
教 育 長 遠藤正明	文化財保護係・発掘調査担当者	高崎直成・鍋島直久
生涯学習課長 仲野政男	大井町臨時職員・発掘調査補助員	土本医
4. 本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。
 執 筆：縄文土器 今井堯、本文・遺構 高崎直成
 土器・陶磁器実測：青山奈保美、石垣ゆき子、石原聡、高橋けい子、丹治つや子、山口妙子
 石器実測：石原聡、高橋けい子 土器拓影：石垣ゆき子、植田勢津子、高橋けい子、山口妙子
 土器復元：中田藤子 トレース：青山奈保美、小林登喜枝、須藤さち子、表作成：植田勢津子
 図版作成：青山奈保美、石垣ゆき子、須藤さち子、高橋けい子、中田藤子、山口妙子、丹治つや子
 遺構写真：坪田幹男・高崎直成・鍋島直久・土本医 遺物写真：高崎直成
 土器・石器実測の一部を（有）文化財COMに委託した。
 また、整理作業のなかで日本考古学協会の今井堯氏の援助と協力を得た。
5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）
 会田昭明、浅野晴樹、穴澤義功、天ヶ嶋岳、荒井幹夫、市丸靖子、内田賢司、岡田憲治、小澤千恵子、加藤秀之、梶原勝、梶原喜世子、神木繁嘉、國見徹、隈本健介、小出輝雄、駒井和久、桜井信枝、笹森健一、佐藤啓子、島田一郎、高橋京子、田中信、中島宏、塚田政子、原口雅樹、早坂廣人、松本新八郎、松本富雄、水村孝行、柳井章宏、柳沢健司、和田晋治
 埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課、東久保土地区画整理組合、大井町立郷土資料館、大井町遺跡調査会、（有）文化財COM。
6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。
 〈発掘調査参加者〉（敬称略）
 新井和枝、荒井美奈子、飯塚泰子、石原聡、井上晴江、海老原サナエ、大曾根キク子、笠原英子、金子君子、金丸文男、小林こずい、酒井昭、佐久間ひろ子、篠崎忠三、鈴木英子、鈴木エミ子、関田成美、高木千恵子、戸澤竹二、中嶋末子、野岡由紀子、野沢松代、林きぬ子、比嘉洋子、三村美代子、若尾久美子、若林紀美代
 〈整理作業参加者〉（敬称略）
 青山奈保美、石垣ゆき子、石原聡、植田勢津子、小林登喜江、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、山口妙子

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。
 - (1) 縮尺は原則として
 遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 炉などの詳細図 1:30
 土器実測図 1:4 土器拓影図 1:3 石器実測図 1:3、2:3 銭 1:1
 - (2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。
 - (3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。
 攪乱  地山（ローム）  焼土 
 土器 ● 石器 ★ 黒曜石・チャート ▲ 礫 ○
 - (4) 土器実測図における screen-tone の指示。
 地文縄文  撚糸文 
 - (5) 土器断面図は、「」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。
2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号にしている。
3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

第2表 1998年度埋蔵文化財調査一覧表

	遺 跡 名	申 請 地	面積 (㎡)	原 因	試 掘 期 間	調 査 措 置
1	江川南遺跡第9地点	東久保1街区2・3画地	875	共同住宅	10.10.9	試掘
2	江川東遺跡第5地点	東久保1-155-6	164	土地分譲	10.6.1～10.6.9	試掘
3	亀久保堀跡遺跡第7地点	東久保32街区7画地	165	砂利敷駐車場	10.11.16	試掘
4	亀久保堀跡遺跡第11地点	東久保2街区12画地	151	個人住宅	10.4.8～10.4.22	試掘
5	亀久保堀跡遺跡第12地点	東久保258-46	123	個人住宅	10.5.8～10.5.21	試掘
6	亀久保堀跡遺跡第13地点	東久保5街区11・12画地	107	個人住宅	10.5.8～10.5.21	試掘
7	亀久保堀跡遺跡第14地点	東久保2街区11画地	132	個人住宅	10.4.8～10.4.22	試掘
8	亀久保堀跡遺跡第15地点	東久保7-2街区4・5画地	111	個人住宅	10.5.8～10.5.21	試掘
9	亀久保堀跡遺跡第16地点	東久保5街区18・19画地	117	個人住宅	10.6.1	試掘
10	亀久保堀跡遺跡第18地点	東久保7-2街区1・2・7～9画地	908	個人住宅4軒分	10.11.5～10.11.30	試掘
11	亀久保堀跡遺跡第19地点	東久保4街区11・12画地	99	個人住宅	10.11.5～10.11.10	試掘
12	亀久保堀跡遺跡第20地点	東久保8街区5画地	185	個人住宅	10.11.24	試掘
13	東久保西遺跡第4地点	東久保10街区1画地	298	砂利敷駐車場	10.12.2	試掘
14	東久保西遺跡第5地点	東久保9街区9画地	194	個人住宅	10.12.14	試掘
15	東久保西遺跡第6地点	東久保12街区1・2・10画地	1,959	店舗	11.2.9～11.2.15 (11.2.24～11.3.1)	試掘後遺跡調査会で本調査
16	東中学校西遺跡第13地点	東久保2街区12画地	218	専用住宅	10.6.9～10.6.11	試掘
17	東中学校西遺跡第14地点	東久保44街区11・20・26画地	1,231	共同住宅	10.6.23～10.6.26	試掘
18	東中学校西遺跡第15地点	東久保45街区1・4・6画地	2,649	店舗専用駐車場	10.8.24	試掘
19	東中学校西遺跡第16地点	東久保42街区6画地	1,347	店舗専用駐車場	10.8.19～10.8.31	試掘
20	東中学校西遺跡第17地点	東久保38街区7・8画地	1,131	店舗専用駐車場	10.8.24	試掘
21	東中学校西遺跡第18地点	亀久保319-1	850	テニスコート	11.2.15～11.2.17	試掘
22	東中学校西遺跡第19地点	東久保52街区8画地	944	アスファルト駐車場	11.3.17	試掘
23	東久保南遺跡第14地点	東久保63街区2画地	333	個人住宅	10.6.25～10.7.1	試掘
24	東久保南遺跡第15地点	東久保60街区6画地	143	個人住宅	10.7.8～10.7.9	試掘
25	東久保南遺跡第16地点	東久保59街区3画地	541	共同住宅	10.12.14	試掘
26	東久保南遺跡第17地点	東久保46街区9・10・17画地	1,264	自動車ショールーム	11.2.2～11.2.3	試掘
27	西ノ原遺跡第110地点	苗間146-2	385	郵便局	10.4.20～10.5.28	試掘
28	西ノ原遺跡第111地点	大井苗間23街区9画地	354	個人住宅	10.10.23～10.10.27	試掘
29	西ノ原遺跡第112地点	大井苗間23街区9画地	144	個人住宅	11.2.9	試掘
30	中沢前遺跡第15地点	大井苗間34街区1画地	109	個人住宅	10.7.13	試掘
31	中沢前遺跡第16地点	大井苗間30街区6.7画地	482	共同住宅	11.3.12～11.3.15	試掘
32	中沢前遺跡第17地点	大井苗間32街区2画地	165	個人住宅	11.3.12～11.3.15	試掘
33	神明後遺跡第7地点	苗間260	1,460	個人住宅	10.6.1～10.6.2	試掘
34	神明後遺跡第8地点	苗間235-1	458	共同住宅	10.7.21～10.7.24	試掘
35	神明後遺跡第9地点	苗間310-1	219	共同住宅兼自家用車庫	10.9.1～10.9.11 (10.9.14～10.10.15)	教育委員会で 本調査

II 江川南遺跡の調査

1 遺跡の立地と環境

江川南遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約300～500m程下った右岸に位置している。標高20～21mで現谷底との比高差は約1～2mを測る。福岡江川の北側は急傾斜を成すが、本遺跡をのせる南側の台地は緩やかに傾斜する。遺跡周辺は川越街道に隣接しており、急激な市街化によって大きく変貌している。

周辺の遺跡は、福岡江川の対岸に縄文時代中期前葉の単一集落の亀居遺跡と、鶴ヶ舞遺跡が位置する。福岡江川右岸で本遺跡の西側約150mに、平安時代の遺物を出土する江川東遺跡、さらにその西側約50mに旧石器時代の礫群を検出する東久保遺跡が位置する。

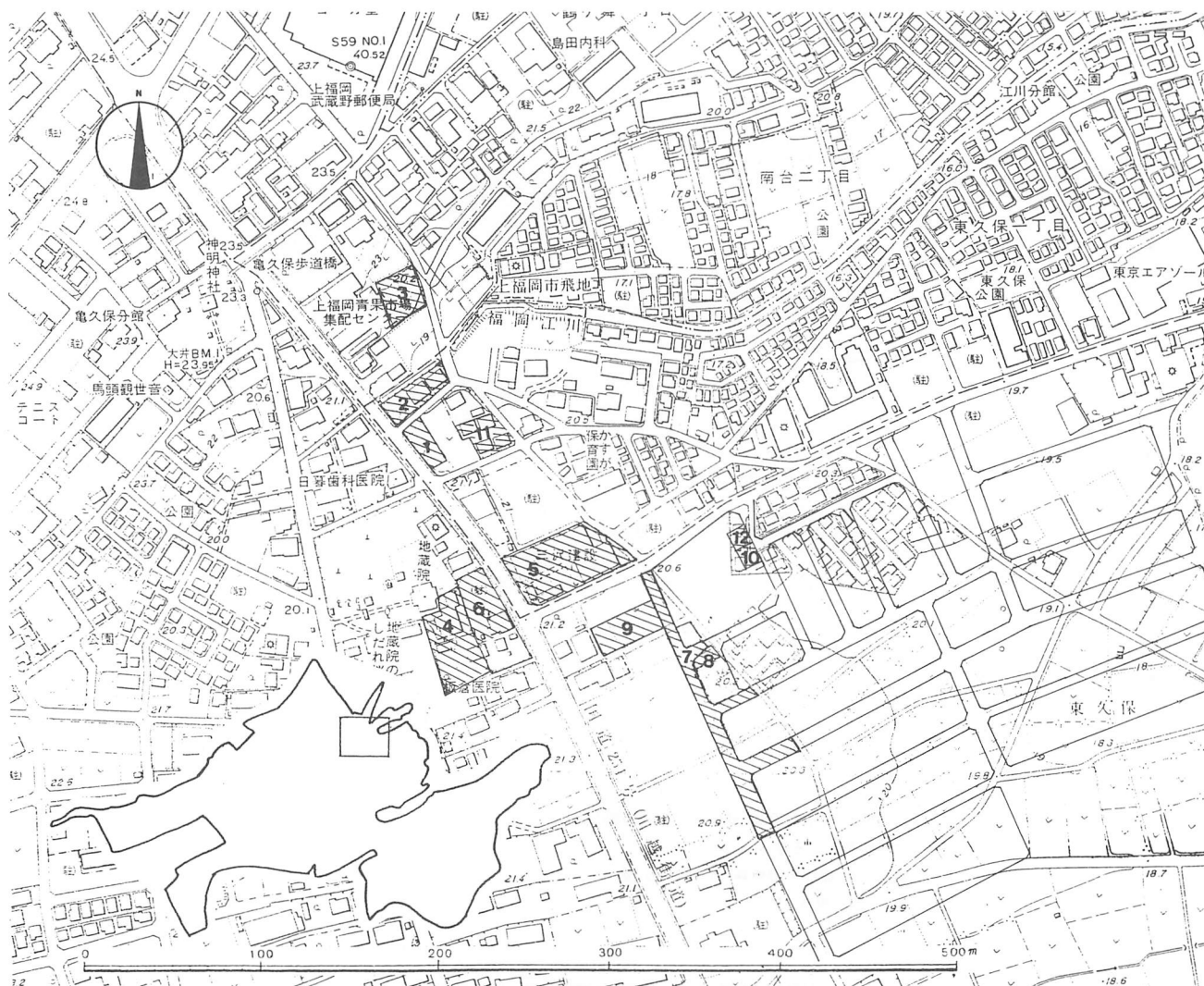
本遺跡の最初の調査は1977年に町史編纂事業の一環として行われ、2000年3月現在12ヶ所で試掘調査お

よび発掘調査が行われている。なお1985年調査の地蔵院遺跡第1地点は江川南遺跡第6地点に変更した。

本遺跡はこれまでの調査で、旧石器時代では礫群、石器ブロックが検出されている。

縄文時代中期前葉では炉体土器を伴う住居跡2軒が検出され、亀居遺跡の立地とあわせて台地の奥に形成された中期前半の遺跡の在り方として特異な様相が窺える。

中・近世では、地蔵院に關係する18世紀前半の陶磁器類が池状遺構から多数出土している。地蔵院は、南北朝期の二階堂氏との関係から氏の館跡との想定もされており、近年の発掘調査では、当該期に遡るとみられる断面箱葉研状の堀跡が確認され、その他の遺物や遺構の確認等が今後の課題であろう。



第3図 江川南遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



江川南遺跡第9地点 調査区全景



江川東遺跡第5地点 調査区全景



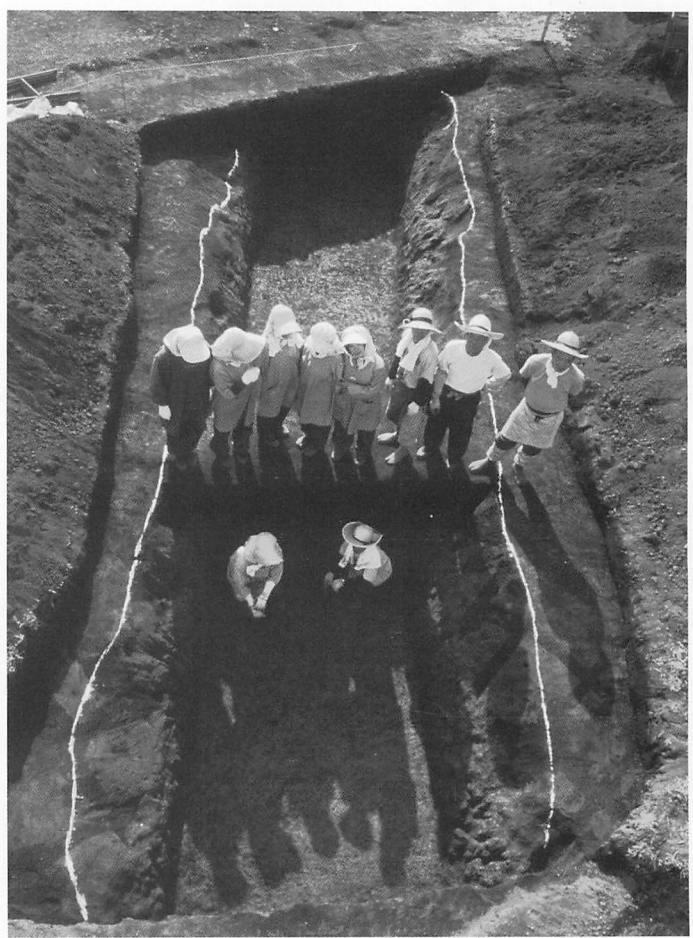
亀久保堀跡遺跡第7地点 堀跡



亀久保堀跡遺跡第12地点 堀跡土層



亀久保堀跡遺跡第11地点 堀跡



亀久保堀跡遺跡第12地点 堀跡